

観光フォーラム

バーチャル観光ツールとしてのビューマスター

The View-Master as a Virtual Tourism Tool

大井田 かおり

Kaori Oida

尚美学園大学芸術情報学部情報表現学科准教授

キーワード：ビューマスター、ビューマスターリール、バーチャル観光、立体視

Key Words : view-master, view-master reel, virtual tourism, stereoscopic vision

Abstract :

The view-master is a device developed in 1939, it is for binocular stereoscopic vision of two photos. The view-master is used by inserting a disc-shaped view-master reel, it has 7 sets of 14 photographic films. The view-master was a substitute for postcards, it was popular as a virtual tourism tool before the advent of head-mounted displays and dome theaters. It is necessary to organize the introduction of the view-master from a tourism perspective. This essay is the history of view-master from tourism perspective, it also discusses what the oriental reels including Japan, shot from the 1950s to the 1960s, symbolize.

I. はじめに

John Urry は 2010 年初版の『観光のまなざし』において、「写真は観光のまなざしを進展、拡大したいちばん重要な技術だった」と述べている⁽¹⁾。1800 年代の終盤から、Kodak の軽量安価なカメラの普及により、専門家のものであったカメラが一般人のものとなり、カメラは観光において不可欠なものになっていった。一方で専門家による商業写真は、「身体の旅への願望を作り出すこと、そして非日常の心象地理を持つ観光地を台本化し舞台に乗せる⁽²⁾」ものとして機能した。一般の観光商業写真以上に臨場感の高さや非日常性を感じさせるツールとして普及したのが、アメリカで開発されたビューマスター (View-Master) である (図 1 左⁽³⁾)。ビューマスターは景色絵葉書の代用品として製造されたもので、2 枚の写真を両眼立体視する装置である。ビューマスターリール (View-Master Reel、以下リール) は直径 9cm ほどの円盤に縦 1.0cm 横 1.1cm の 7 組 14 個のフィルムを配置したものである。これを縦 10cm 前後、横 11cm 前後 (企画によって多少のばらつきはある) のビューマスター本体に差し込み、レバーを上下させることで、7 組の写真を一周させる。ヘッドマウントディスプレイ等、より高次のバーチャルリアリティを表現する機器が現れたため、従来のビューマスターはノスタルジアを醸し出す玩具となった。リールの主流は、景色から 1951 年に著作権を獲得したディズニー

ものや映画・アニメキャラクターへと移っていった (KOVELS Antique Trader⁽⁴⁾)。2024 年 3 月現在、日本においてビューマスターとリールは、中古市場での購入が主である。

ビューマスターが 20 世紀後半のバーチャル観光において、現在のヘッドマウントディスプレイやドームシアターといった 360 度映像装置以前に果たした役割は決して小さくない。ところが、本邦では観光という視点からのビューマスター紹介は行われて



図 1 左 従来型ビューマスターとビューマスターリール
右 ビューマスターデラックスVRビューアと新型ビューマスターリール 筆者撮影

いない。よって本論では、観光視点でビューマスターの歴史を紹介すると共に、1950年代から60年代にかけて撮影されたと考えられる「JAPAN」および「ASIA」のフィルムが象徴するものについて考察する。

II. ビューマスターの開発

「特殊な視の関係の中にとりこまれ、それによって（中略）自動的に絵の世界の内部へと魅了されていく段取り（田中・高山 1998）⁽⁵⁾」を覗くという行為によって固定化したのが江戸時代日本にも普及した覗き眼鏡すなわちゾグラスコープである（図2⁽⁶⁾）。1枚の眼鏡絵（風景画）を凸レンズから45度傾いた鏡に映し、覗き込み立体視する仕組みの覗き眼鏡は、最も初期のバーチャル観光ツールである。覗くという行為には包囲感による没入感が伴う。しかし、覗き眼鏡を現在目にしても、江戸時代の人々の高揚感を推測するのは困難である。より高次のバーチャルリアリティに触れると、それ以前のバーチャルリアリティ技術を目にしても迫力を感じにくくなる。人間は、常にその時代における最新のバーチャルリアリティ技術による景色の鑑賞を追究して来たのである。

藤田（2015）によると、両眼立体視は「奥行き感覚・立体の感覚が得られることに加えて、ものの輪郭がはっきりし、微細な構造や表面の手ざわり感が視覚的に感じられ」「片目で見ると世界よりも明るく感じられる」ものである⁽⁷⁾。人々が立体視した映像に平面のものとは異なる好奇心を感じるのは、こうした臨場感の高さによるものである。人々は両眼による立体視の特性をさらに追及した機器を開発しようとした。

人間は左右の目の位置のずれにより、立体視を行っている。微妙に異なる2方向から撮影した2枚の写真で目の機能を再現したのがステレオスコープである（図3⁽⁸⁾）。イギリスの物理学者 Charles Wheatstone は、1832年にミラーステレオスコープを用いた絵の立体視を考案した。James Elliot は1823年にステレオスコープの原理を考案し、1839年には風景用のステレオスコープを開発した。David Brewster は1849年に容易に携帯可能な小型のステレオスコープを生み出し、それが普及することとなった。

その後、赤青2色で立体視を可能にするアナグリフが普及した。2台のカメラで右目用と左目用の映像を別々に撮影し、右目用カメラの映像を赤、左目用カメラの映像を青で印刷する。視聴時は右目に青いレンズ、左目に赤いレンズ（多くの場合ゼロファン）のメガネをかけ、立体視を行う。赤青2色の景色では、「飛び出す感じ」という立体視の仕組みを楽しむには十分であるが、臨場感は乏しい。カラーの立体視が可能になるには、カラーフィルムの普及を待たなくてはならなかった。

1935年 George Eastman の Kodak により、カラーフィルムのコダクロームフィルムが発表された。Edwin H. Land と George W. Wheelwright III は1935年に最初の偏光式3D映画を撮影し上映した。1939年にはニューヨーク万博において、Sawyer's

がビューマスターを紹介した。オルガン製作者であったドイツ系移民 William Gruber が開発したものである。元々ビューマスターは、2台のカメラを同時に三脚に取り付けて撮影した写真を使用していた。1952-1955年には、View-Master Personal Stereo Camera という35mmのビューマスター専用カメラが発売された。既製品のフィルムを使用するのみならず、個人がカメラ1台でビューマスター用写真を撮影し、フィルムを作成することが可能となった。ビューマスターは元々 Sawyer's が販売していたが、1966年 General Aniline & Film（以下 GAF）に買収され、その後も会社の売却統合が続いた。1981年から View-Master International Group、1984年から View-Master Ideal Group、1989年から Tyco Toys を経て、1998年から Mattel が販売を行っている⁽⁹⁾。2009年3月に Mattel が2008年末を以て従来のフィルムの製造中止したことを発表した。2015年に Mattel は Google 社と共同で、ビューマスターデラックスVRビューア（View-Master Virtual Reality Viewer）を発表した（図1右⁽³⁾）。スマートフォンを装着してVRやARを楽しむ簡易ヘッドマウントディスプレイである⁽¹⁰⁾。Google カードボードのプラスチック版であり、2つの映像を立体視するという点は、従来のビューマスターを踏襲している。スキャンする媒体として、従来のビューマスターフィルムと同じ大きさで形状を似せたものを使用している。ただし、Google ストア対応アプリは、2024年3月末現在終了しており、後継機は存在しない。



図2 覗き眼鏡（ゾグラスコープ）鈴木春信 高野の玉川 神戸市立博物館蔵より転載



図3 ステレオスコープ 1905年頃 Science Media Museumより転載

Ⅲ. ビューマスターの種類

観光を意図したリールはGAFによるものが多く出版されている。初期のリールはアメリカの景色が中心だが、後に他国の景色も紹介するようになる。

ビューマスターは発売元が何度も変更されており、コレクターによって整理が行われている。The VIEW-MASTEW Ultimate Reel List⁽¹¹⁾ や、それを元にジャンル別の整理も行っているThe View-Master Database⁽¹²⁾ などがある。本論のリストは以上2編を参照している。発売元に許可を取り製造したアメリカ内外の私的なリールも存在するため、全貌を把握するのは困難である。

1. 1枚物ビューマスターリール

ここではThe VIEW-MASTEW Ultimate Reel Listを元に1900年代までの1枚物リールを紹介する。こちらのリストは欠番も存在する。例えば、1-3は欠番になっているが、試作品かプロモーション用のリールであったと考えられる。また、生産数が極度に少ないものは、把握困難な可能性がある。元々は1リールで発売されていたが、1957年までに3リールのセット発売が一般的となる⁽¹¹⁾。

4-11はネバダ州とアリゾナ州の州境にあるフーバーダム（ボルダーダム）である。1946-1947年に作成されたものである。1948年にかけて、ロッキー山脈を中心とした西部山脈にある国立公園の紹介が多くなる。ブライスカニオン、クレイターレイク、グランドキャニオン、グランドティトン、グレイシャーなどが続く。Sawyer'sはオレゴン州ポートランドの会社なので、初期はアメリカ西部紹介が多くなったと考えられる。

1939-1940年にサンフランシスコでゴールデンゲート国際博覧会が開催されると、その様子が伝えられた（56-59）。61-73は1950-1951年のもので、ハワイの紹介が続く。ゴールデンゲート博覧会の後、ハワイの紹介まで一般向けリールの製造が途切れるのは、第二次世界大戦の影響である。ビューマ

スターは第2次世界大戦中、対空射程距離推定、砲弾軌道における偏向の修正、戦闘機・軍艦の識別などの訓練に用いられた。当時アメリカが戦っていた日本に関するものとしては、「Zeke（ジーク=零式艦上戦闘機）」という項目が随所に見られる。戦後はハワイに次いで、戦前1939年に開催されたニューヨーク万国博覧会も紹介されている。アメリカ西部のみならず、東部観光地の紹介も増えていく。124でウイスコンシンのネイティブアメリカンの儀式（1950年前後?）を紹介しているが、初期段階からネイティブアメリカンの文化紹介を行っていた。

405-407はエリザベス2世である。1953年にロンドンウエストミンスター寺院で戴冠式が行われたことによるものである。景色のみならず、人物にも焦点が当てられることとなった。501-509はメキシコ各地を紹介するものとなっている。この間に外国の景色も紹介するようになっている。500番台、600番台と中南米の紹介が多いのは、アメリカからは往来しやすい外国であるためと考えられる。725-727はメジャーリーグの野球選手、740-742はハリウwoodsの映画スター、745-747はテレビのスターというように、スター的位置づけの人が紹介されるようになる。

900番台に入ると、アフリカの動物に始まり、アメリカ各地の動物園および動物が紹介されるようになる。1000番台では、ヨーロッパが紹介されるようになる。3000番台ではアフリカ、4000番台では中東の国々が紹介されるようになる。4300からアジアが登場する。インドのタージマハルから始まるインド各地の観光地が紹介される。マレーシア、香港、タイに続き、4870で日本が登場する。4870 東京と富士山、4871 東京、4871 富士山と農村風景、4873 日本の祭りと続く。5000番台は南太平洋の国々が紹介される。

2. 3枚物ビューマスターリール

1947年までにリールは3枚組に切り替わる。3枚組は風景、アニメーションなどが混在するようになる。3枚組には製造年の記載がない。また、番号が異なる同じ地域のリールは写真を数枚入れ替えた改訂版のことも多い。

A175-A180はディズニーランドに関するものである。1955年カリフォルニアディズニーランドのオープン以降、ディズニーランドはアメリカで最も人気のテーマパークであることと、ディズニーの版権を持っていることにより、テーマパークの中では、シーワールドやユニバーサルスタジオ以上に、リールが最も多く製造されている。

アジアに関しては、B235以降、インド、ミャンマー（ビルマ）、タイ、マレーシア、シンガポール、カンボジア、南ベトナム（現ベトナム社会主義共和国）、香港、バリ島、中国、台湾、韓国と続き、B262日本、B263京都、B264東京、B265奈良、B266富士箱根伊豆国立公園、B267日光、B268-B270大阪万博（1970）、B271伊勢志摩、B272奈良大和となる。日本の後はフィリピン、パプアニューギニア、南太平洋の国々と

なる。

冷戦を背景に、アメリカとソ連は宇宙開発を競っていた。1961年ソ連のポストーク1号に乗船したガガーリンは人類初の地球軌道周回を行った。1969年アメリカのアポロ11号が初の月面着陸を行った。1960年代から1970年代初頭にかけて、宇宙ブームが巻き起こった。A425ではNASAの施設が紹介される。B658-B681はアポロ計画、月面着陸を踏まえた宇宙関係のものとなる。これは宇宙開発を反映したものとなっている。アメリカの宇宙開発のみを宣伝しているわけではない。「B663 アポロ月面着陸 1969年7月16日アポロ11号の歴史的打ち上げ(図4⁽¹³⁾)」などのアメリカの映像のみならず、「1957年宇宙時代の到来を告げたロシアのスプートニク1号(図5⁽¹⁴⁾)」のような、冷戦の対抗相手であるソ連側の功績も紹介している。展示されているスプートニク1号の後ろには、レーニン像が見える。1977年発行のH13はスミソニアン博物館群の国立航空宇宙博物館を紹介している。宇宙関係のフィルムは製造打ち切り時まで発売されていたため、人気があるジャンルとわかる。

筆者は1970年大阪万博開催の年に、大阪万博会場のフィルムであるGFAのB268とB269を入手している(図6⁽¹⁵⁾)。フィルムと同時に購入した本体もGAFのものである。B268とB269は大阪万博の昼景、B270は夜景である。日本語翻訳の説明書が封入されていた。博覧会のフィルムはほとんどはA671-A775の1964年のニューヨーク万国博覧会をはじめとしてアメリカで開催されたものだが、B787-B789の1958年ベルギーブリュッセル万国博覧会、C137-C138の1964年スイスローザンヌ国内博覧会、A071-A074の1967年カナダモントリオール万国博覧会、B268-B270の1970年日本大阪万国博覧会、CR395の1992年スペインセビリア万国博覧会等アメリカ以外の博覧会も紹介されている。

B970からC、Dにかけては、ほぼベルギー発行となる。

プリスターパックのA-1は日本版であり、タカラトミーが発行した動物園の動物に関するものである。A-2アフリカの野生動物、A-3サファリ大冒険となっているが、それ以降、ディズニーキャラクター等キャラクターものが中心となる。D14-D18、T1-T3はディズニーランドである。タカラトミーの日本版は、「株式会社トミーがビューマスター社(米国)より輸入したものです」との記述がある。日本版の三枚組としては、5492八重山、5493沖縄本島が、1995-1996年にTyco Toysから発行され、沖縄の那覇ショッピングセンターを運営する山内産業が発売元となっている。34989-9866は宮古島であるが、Tycoの名と製造年の表記はない。これ以降発売された日本盤は、立体写真・ステレオ写真用品を販売しているSTEREOeYe⁽¹⁶⁾による2枚組の「3D-TOKYO」のみである。「3D-TOKYO」と同社の「ANIMAL 3D MANIA」が日本において現役で発売されている最後のビューマスターフィルムである。

3. ビューマスターフィルムのテーマ

観光を意図したフィルムのテーマには、景色のほか、前述したようなテーマパーク、万国博覧会、宇宙開発、動物、アメリカ先住民、人物、博物館・美術館といったものがある。博物館・美術館フィルムにはスミソニアン博物館群の博物館、メトロポリタン美術館のようなアメリカの博物館の紹介が多いが、C17-C178のようにフランスパリのルーブル美術館を紹介したものや、C282のようにイギリスロンドンのマダムタッソー蠟人形館を紹介したものがある。C437の1972年ミュンヘンオリンピックのようなスポーツの紹介も行っている。

地域という観点からだけでなく、B901のような世界の七不思議、J75のようにメトロポリタン博物館のツタンカーメン王展示に焦点を当てたもの、コイン(B840)や切手(B841)、B794-B797のような昔の汽車、車、船、飛行機を紹介したもの、B790南北戦争、B792第一次世界大戦、B810独立戦争のように歴史事象を取り上げたものなどがある。異色のものとしては、D237アラビア語版の「イスラム教徒の祈り方」がある。



図4 1962年John Glennによる地球周回軌道飛行の歴史的瞬間

図5 1957年宇宙時代の到来を告げたロシアのスプートニク1号

GFA B681 宇宙航空学 より転載



図6 筆者の所有していたものと同型のビューマスターとビューマスターフィルム(左からB268大阪万博I、B269大阪万博II、B663月面着陸、B270大阪万博夜景)

IV. GAF 製造ビューマスターリールから見た日本とアジアのイメージ

現在中古市場で最も多く見かける観光を意図したリールの多くが GAF のものである。GAF の B262⁽¹⁷⁾ を改編した C980 「JAPAN (3 枚組)」は、高速道路や建設ラッシュの様子が見られることや、登場人物がほぼ和服を着ていることから、1950 年代から 1960 年代にかけて撮影されたものと考えられる。当時のアメリカ人が考える日本を象徴するものを選定したと見なされる。各写真のテーマは以下の通りである(表 1⁽¹⁸⁾)。「二重橋と子連れ和服女性」「東京の高速道路と堀」「水際の魚樽・魚箱・魚籠と漁民(東京)」「建設中のビルと木造の小さな漁船(東京)」「鎌倉大仏」「鎌倉での和服の稲刈り風景」「河口湖を背景とした桜と富士山(カバーの写真)」「賢島の海と海女」「奈良公園の鹿と子供」「平安神宮と宮司」「文金高島田の和服女性とスーツ男性の結婚写真」「京都の野点(のだて)」「姫路城」「和服女性と鷺羽山展望台からの景色」「小豆島の茶摘み」「宮島厳島神社鳥居と神楽」「福岡の祭り」「高知の尾長鳥」「仙台の七夕」「縁台に腰掛ける子供と武者絵の風(仙台)」「雪景色と石仏」。高度経済成長を象徴する高速道路や建設ビルラッシュと着物を着た人による伝統美の両方が外国人の興味を引いたものと考えられる。「二重橋」「鎌倉大仏」「富士山」「奈良公園の鹿」「平安神宮」「姫路城」「宮島」といった定番観光地のみならず、着物の結婚写真や縁台に腰掛ける子供等の日本らしい風情の生活を感じさせる写真が混在している。

撮影された当時はまだ着物文化が根付いており、出勤時は洋服でも帰宅後は和服に着替えた人が多かった時代である。生活に溶け込んだ和服が、西欧人には新鮮に見えていた可能性が高い。

外国人の日本の関心対象を現状から考察する。内閣府ホームページ「クールジャパン戦略」についての知的財産戦略本部の「クールジャパン戦略⁽¹⁹⁾」では、日本の魅力の典型例を食、アニメ、ポップカルチャー、新幹線、伝統工芸、有名観光地としている。新幹線の開通は 1964 年で、ジャパンレールパスの実施が 1981 年なので、写真撮影時は現在ほど外国人の関心を集めていなかったと考えられる。日本に限らず食事の紹介リールは稀である。株式会社日立製作所 平成 30 年度ビッグデータを活用した観光行動分析実証事業分析レポートの「SNS 投稿カテゴリの市場比較⁽²⁰⁾」では、米国・英国・豪州と比較し、食事に関する SNS 投稿が多いのはアジア圏であることがわかる。リールに食題材の映像が少ないのは、リール製造国であるアメリカの食に対する関心がアジアほど高くないためと考えられる。撮影時点では日本のアニメやポップカルチャーが現在ほど注目されていないので、こうした題材のリールはない。J23 はアメリカ製作で 1978 年放映のテレビアニメ「Godzilla」のリールである。1977 年マーベルコミックから『Godzilla, King of the Monsters』が発売されたことから、

アメリカでもゴジラの人気が高かったことが伺える。伝統工芸には和服のほかに、当時は現役使用されていた魚樽・魚箱・魚籠、木造船、和風の映像がある。訪日ラボ 高知県のインバウンド需要⁽²¹⁾によると、インバウンド観光客の人気観光スポットに長尾鶏センター(オナガドリセンター)はない。キジや丹頂鶴より形状にインパクトがあるため、選択されたと考えられる。平安神宮や厳島神社といった神社の映像はあり、鎌倉大仏の映像はあるが、寺院そのものの映像がない。鎌倉大仏を撮影する場合、高德院が写り込むアングルも考えられるが、リールは大仏のみの映像である。これは、仏教は他国にもあり、日本独自の宗教はあくまでも神道という考えのあらわれであろう⁽²²⁾。

GAF の B215 「ASIA (3 枚組)」は以下の通りである。「河口湖を背景とした桜と富士山(日本)」「慶州の農家とチマチョゴリの女性(韓国)」「梅の季節の陽明山公園と洋服の女性(台湾)」「大平山山頂の盧吉道から眺めた景色とスーツ男性(香港)」「ルソン島の棚田と民族衣装で頭上運搬している女性(フィリピン)」「バリ島のレゴンダンスを踊る女性(インドネシア カバーの写真)」「ボートキーの吊り橋(シンガポール)」「マラッカの猿によるココナツ収穫と民族衣装の飼い主(マレーシア)」「メコン川のサンパン(平底の木造船)と民族衣装の人々(南ベトナム共和国 ※現ベトナム社会主義共和国)」「田を耕す水牛と洋服の男の子(カンボジア ※奥に写っている男の子はほぼ裸体)」「ワット・プラケオ寺院と洋服の女性達(タイ)」「ラングーンの水掛祭り(ビルマ ※現ミャンマー)」「象使いと民族衣装の男性達(セイロン ※現スリランカ)」「ジャイプールのアンベール城と水牛(インド)」「エベレストと登山者(ネパール)」「ラホール博物館の前に展示されているラドヤード・キップリングの小説『少年キム』で有名になったザムザマ大砲(パキスタン)」「クテシフォン遺跡の前で民族楽器を演奏する人と子供(イラク)」「メッカのマスジド・ハラーム・モスクと街並み(サウジアラビア)」「エルサレムのダマスカス門前(イスラエル)」「バイルートの殉教者広場(レバノン)」「ボスフォラス海峡をヨーロッパ側からアジア側へ渡るフェリー(トルコ)」(表 2⁽²³⁾)。ここに、北ベトナム(ベトナム民主共和国)、北朝鮮、ラオス、中国がないのは、当時の冷戦という社会情勢を反映している。ただし、B255-B256 は中国のリールであり、B210-B213 というロシアのリールも存在することから、社会主義国のリールの製作自体を避けていたわけではない。B255 「Inside China Today」 B212 「Russia Today」というように、中国とロシアのみ国名だけではなく「Today」という表記がある。これらのリールには社会主義国らしい景色が盛り込まれており、「社会主義国の今」というニュアンスを汲み取ることができる⁽²⁴⁾。

日本の「河口湖を背景とした桜と富士山」は「JAPAN」から引用されている映像なので、他国のそれぞれの映像も、各国のものからの引用と考えられる。「JAPAN」のカバーも富士山である。「JAPAN」の中から日本人が外国人向けに日

本を象徴すると思われる映像を1枚選ぶとなると、「河口湖を背景とした桜と富士山」で多くの人々が納得すると考えられる。Googleで「日本の象徴」画像を検索すると、2024年3月末日現在で最も多くヒットするのが富士山であり、その多くが桜と共に写っている。タイのワット・プラケオ寺院、ネパールのエベレスト、サウジアラビアのマシド・ハラーム・モスクなどは、それぞれの国を象徴するものとして思い浮かべやすいものである。しかし、多くのものは西欧人から見てエキゾチズムをかもし出す風景である。各民族衣装の人々やアメリカにない建築物や風景が写り込んでいるものが多い。「ASIA」のカバーはバリ島のレゴンダンスなので、編集者にはレゴンダンスの民族衣装がこれらの中では最もアジアを象徴する映像と映ったことになる。

トルコのフェリー乗り場はどの国にもあるような光景であり、代表的観光地のブルーモスクやアヤソフィア、カッパドキアなどの風景ではない。ボスフォラス海峡はアジアとヨーロッパにまたがる海峡であり、そこにロマンを感じた人が選択した可能性がある。

アメリカ各地のリールやA090「CANADA」は、主に遠景の景色中心で、人間が写っていても、偶然写り込んだ観光客がほとんどである。A101「ALASKA」は少数民族地域であるが、3枚組21映像中イヌイットが写っているのは2枚のみで、どちらも観光客を対象とした催し物である。A1203「HAWAII」でエキゾチズムを感じさせる映像は21映像中「ポリネシアン・カルチャー・センター」「コダック・フラ・ショー」であり、こちらも観光客を対象とした催し物である。一方、日本を含むアジアのリールは、観光地であっても民族衣装の人間や生活の光景が大きく写り込んでいるものが多い。地名を冠したアメリカやカナダのリールは景色がほとんどで、少数民族が多い地域であっても、観光化されたエキゾチズムの映像が少数混じるのみなのと対照的である⁽²⁵⁾。

V. おわりに

アメリカでは空のリールが販売されており、35mmアナログカメラで1つの景色につきスライダーで左右2枚分撮影され現像されたフィルム、もしくはビューマスター専用カメラ等の立体視用2レンズカメラを用いて撮影されたフィルムを使用し、自作することが可能であった。ビューマスターは他者の撮影した観光写真を楽しむだけでなく、自作の観光写真を楽しむ装置でもあった。

Mattleがリールの製造中止したのは2008年末だが、現役発売されている「3D-TOKYO」には「@2010 Image3D Beaver Creek, OR 97004 USA United States Patent Number, 6 295 067」との記載がある。Discovery KIDS Marine Lifeのリールには「View-Master® is a U.S. trademark of Mattle ©2014& TM Discovery Communications, LLC. All rights reserved.」とあり、中国製との記入がある。Mattleそのものが

製造中止した後も、Mattleの許可により他国での販売は継続可能である。

従来のビューマスターがバーチャル観光を牽引する時代は終わった。しかし、今後レトロ玩具として再び注目を浴びる可能性がないわけではない。

観光題材ビューマスターリール映像をとつても、冷戦という世情やアジアに対するエキゾチズムの反映が見て取れる。それぞれの時代の最先端の視覚的バーチャルリアリティツールが開発されると、人々は真っ先に景色の映像を見ようとして来た。覗き眼鏡（ゾクラスコープ）、ステレオスコープ、ビューマスター、現在のヘッドマウントディスプレイやドームシアターというバーチャルリアリティツール発展とバーチャル観光は切り離せない関係にある。

ビューマスターは製造元が頻繁に変更され、各国に私的なリールが存在する。本体やリールに製造年月日が明記されていないことが多く、製造年月日が明記されているものであっても、実際の撮影年月日が判明しない。同じタイトルで型番が異なる場合、数枚の写真の入れ替えがある。コレクターが中古市場で収集する段階であり、全貌の把握が困難である。今後のさらなる研究が待たれる分野でもある。

表1 GFA C980 「JAPAN (3枚組)」 筆者作成

				
二重橋と子連れの和服女性	東京の高速道路と堀	水際の魚樽・魚箱・魚籠と漁民(東京)	建設中のビルと木造の小さな漁船(東京)	鎌倉大仏
				
鎌倉での和服の稲刈り風景	河口湖を背景とした桜と富士山(「ASIA」における日本の風景)	賢島の海と海女	奈良公園の鹿と子供	平安神宮と宮司
				
文金高島田の和服女性とスーツ男性の結婚写真	京都の野点(のだて)	姫路城	和服女性と鷲羽山展望台からの景色	小豆島の茶摘み
				
宮島厳島神社鳥居と神楽	福岡の祭り	高知の尾長鳥	仙台の七夕	縁台に腰掛ける子供と武者絵の凧(仙台)
				
雪景色と石仏				

表2 GFA B215 「ASIA (3枚組)」より筆者作成 (日本の桜と富士山を除く) ※国名は原典のまま

				
慶州の農家とチマチョゴリの女性(韓国)	梅の季節の陽明山公園と洋服の女性(台湾)	大平山山頂の盧吉道から眺めた景色とスーツ男性(香港)	ルソン島の棚田と民族衣装で頭上運搬している女性(フィリピン)	バリ島のレゴンダンスを踊る女性(インドネシア)
				
ポートキーの吊り橋(シンガポール)	マラッカの猿によるココナツ収穫と民族衣装の飼い主(マレーシア)	メコン川のサンパン(平底の木造船)と民族衣装の人々(南ベトナム)	田を耕す水牛と洋服の男の子(カンボジア)	ワット・プラケオ寺院と洋服の女性達(タイ)
				
ラングーンの水掛祭り(ビルマ)	象使いと民族衣装の男性達(セイロン)	ジャイプールのアンベール城と水牛(インド)	エベレストと登山者(ネパール)	ザムザマ大砲(パキスタン)
				
クテンフォン遺跡の前で民族楽器を演奏する人と子供(イラク)	メッカの masjid・ハラーム・モスクと街並み(サウジアラビア)	エルサレムのダマスカス門前(イスラエル)	ベイルートの殉教者広場(レバノン)	ボスフォラス海峡のフェリー(トルコ)

註

- (1) アーリ, ジョン, ラースン, ヨーナス (2014) 観光のまなざし. 第3版. 加太宏邦訳, 法政大学出版局, p.240. Urry, J. & Larsen, J. (2010). *The Tourist Gaze 3.0*. London: Sage Publications Ltd.
- (2) アーリ, ジョン, ラースン, ヨーナス (2014) 観光のまなざし. 第3版. 加太宏邦訳, 法政大学出版局, p.269-270. Urry, J. & Larsen, J. (2010). *The Tourist Gaze 3.0*. London: Sage Publications Ltd.
- (3) 図1 左 従来型ビューマスターとビューマスターリール 右 ビューマスターデラックスVRビューアと新型ビューマスターリール 筆者撮影
- (4) KOVELS Antique Trader (2022OCT4) Focusing on View-Master History and Values <https://www.antiquetrader.com/collectibles/focusing-view-master-history-value>
- (5) 田中優子・高山宏 (1998) 大江戸視覚革命. 作品社, p.201
Timon Screech (1996) *The Western Scientific Gaze and Popular Imagery in Later Edo Japan: The Lens within the Heart*. Cambridge: Cambridge University Press.
- (6) 図2 覗き眼鏡 (ゾグラスコープ) 鈴木春信 高野の玉川 神戸市立博物館蔵より転載 <https://www.kobecitymuseum.jp/collection/detail?heritage=365066>
- (7) 藤田一郎 (2015) 脳がつくる3D世界 立体視のなぞとしくみ. 化学同人, p.68.
- (8) 図3 ステレオスコープ 1905年頃 Science Media Museumより転載 <https://blog.scienceandmediamuseum.org.uk/hidden-treasures-our-collection-stereo-viewers/>
- (9) 60 Years of View-Master History from Sawyers to Mattel <https://www.viewmaster.co.uk/htm/history.asp>
- (10) Mattel <https://corporate.mattel.com/brand-portfolio/view-master>
- (11) INTERNET ARCHIVE Way Back Machine The VIEW-MASTEW Ultimate Reel List <https://web.archive.org/web/20071215043856/http://ccwf.cc.utexas.edu/~number6/vm/index.html>
- (12) The View-Master Database <https://viewmasterinfo.com/>
- (13) 図4 1969年7月16日アポロ11号の歴史的打ち上げ GFA B663 アポロ月面着陸より転載
- (14) 図5 1957年宇宙時代の到来を告げたロシアのスプートニク1号 GFA B681 宇宙航空学より転載
- (15) 図6 筆者の所有していたものと同型のGAFビューマスターとGFAビューマスターリール 左からB268 大阪万博I、B269 大阪万博II、B663 アポロ月面着陸、B270 大阪万博夜景 <https://aucview.com/yahoo/q1121821662/> より転載
- (16) STEREOeYe (<https://www.stereoeye.jp/shop/>) の3D-TOKYO (2枚組 関谷隆司作 2010)
- (17) B262の「銀座通り」「東京の魚市場」「東京の運河」が、C980では「東京の高速道路と堀」「水際の魚樽・魚箱・魚籠と漁民」「建設中のビルと木造の小さな漁船」に変更になっている。
- (18) 表1 GFA C980 JAPAN (3枚組) を参照し、筆者作成
- (19) クールジャパン戦略2019年 https://www.cao.go.jp/cool_japan/about/pdf/190903_cjstrategy.pdf
- (20) SNS投稿カテゴリの市場比較 <https://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.lg.jp/tourism/660cd0f7c41079ffc8029a7a4aa67865.pdf>
- (21) 訪日ラボ 高知県のインバウンド需要 <https://honichi.com/areas/chugokushikoku/kouchi/>
- (22) B263「KYOTO」では、平安神宮、伏見稲荷のような神社のみならず、金閣寺、大徳寺、東本願寺、知恩寺、龍安寺、清水寺、仁和寺といった寺院も紹介されているが、日本の代表的景色を選択した「JAPAN」には選ばれていない。
- (23) 表2 GAF B215 ASIA (3枚組) を参照し、筆者作成 (日本の「河口湖を背景とした桜と富士山」を除く)
- (24) 中国のリールB255には「人民公社での米の乾燥風景」「ダムを建設する人民公社の労働者」「南昌の人民公社にある地主の庭」「紅色小戦士のダンス」などがある。ソ連のリールB212には「レニングラード(現サンクトペテルブルク)の宮殿広場 革命発祥の地」「農業博覧会での近代的な農業機械」「ソチの療養所で健康を取り戻したソ連の労働者」「グルジア(現ジョージア)の首都トビリシの広場にあるレーニン像」「スターリングラード(現ヴォルゴグラード)攻防戦で爆撃された製粉所跡」「モスクワ赤の広場のレーニン廟参拝を待つ人々」といったものがある。これらは冷戦当時の資本主義国から見た社会主義らしい光景と考えられる。
- (25) ネイティブアメリカンやイヌイットを専門に紹介したリールは存在するが、こちらでは儀式、服飾、美術品、工芸品といった風俗習慣そのものに焦点を当てて紹介している。

受理日 2024年6月25日